

学校法人 東京滋慶学園 埼玉福祉保育医療専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方針

【2024年6月20日実施】

2024年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方針	委員評価	学校関係者評価委員の御意見
		優れている:3 適切:2 改善が必要:1				優れている:3 適切:2 改善が必要:1	
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	3	教育理念(建学の理念)養成目的、教育目標を文書として明記している。 学園の理念は普遍のものであるが、時代や環境の変化に合わせて学科のイノベーションを図っている。	特になし	特になし	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定は大事だが、退学については新たにやりたいことが変わった学生もいると思うので、目標を達成するという課題にならないように注意してください。 ・各学科に対して国際教育をどのようにつなげていますか？ ・学生たちの主体性を伸ばしていただけるのはありがたいです。 ・時代の変化をとらえ、適切に定められている。 ・教育理念の下に明確な教育方針を掲げ、高い意識で人材育成に取り組んでいる。 ・理念・目指す人材像が明確になっている。スタート研修による理念浸透、振り返りにも取り組んでいる。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	教育課程編成委員会や実習指導者懇談会、実習巡回時のヒアリング等を通じて必要な人材像、カリキュラムを構築している。 東京都介護福祉士会、埼玉県介護福祉士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県老人福祉協議会、さいたま市社会福祉協議会、さいたま市私立保育園協会等と連携している。	特になし	特になし		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	LT2教育システム、MMPプログラムなど独自のカリキュラムに基づいた現場力教育を行っている。	特になし	特になし		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	事業計画は5か年で計画しており、また周知するための研修や会議等システムが存在する。	特になし	特になし		

2 学校 運 営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3	事業計画を5か年で作成、周知するための研修、会議がシステムとして運用している。 浸透度の確認としては、学園のパーソナルアンケートやONOMミーツィングなどがある。	特になし	特になし	3.0	<p>・個人情報をしっかり守っていただいているようで安心です。適切に運営されていると理解している。PDCAサイクルがうまく機能している。</p> <p>・組織を自ら点検するシステムを構築し、健全な学校運営を推進してる。合理的な発想を兼ね備え、組織として統制が取れている。</p> <p>・個人の成長がチームの成長という言葉にある通り、評価制度が整い取り組まれている。</p>
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3	チェック項目は全て事業計画に定めている。見直しは四半期ごと運営会議で行っている。	特になし	特になし		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3	理事会は年3回開催され、議事録も作成している。寄付行為も適宜変更している。	特になし	特になし		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3	組織図、職務分掌、会議日程は全て事業計画に記載して共有している。また就業規則も定められ閲覧できるようになっている。	特になし	特になし		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	学園本部による人材採用、賃金規程が定められている。昇任、昇格も目標管理制度に基づき業務を点数化しシステムとして機能させている。 新人事制度段階的な運用開始。人材活用プラットフォームHRMOSの導入し、目標管理制度の可視化を推進した。	特になし	特になし		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3	意思決定システム、責任者も事業計画に記載されている。	特になし	特になし		
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	AS400システムで広報～在学中～卒業後まで一貫した情報管理を行っている。また、近年では「業務システム」に移行しながら、利便性を高めている。 iPadによる出席登録を行っており、担任は学生の出欠情報を机上のPCで確認できるようになっている。 5月をデータプライバシー月と指定して、各PCのデータの適正化、不必要なデータ削除を実施している。 個人情報の取扱いについては日本プライバシー協会の研修を全教職員が受講し、修了すると共に定期的な更新講習を行っている。	人為的なミスを減少させることが今後の課題である。システムからのデータ活用について、一層有用な活用方法を検討していく必要がある。併せて個人情報保護についても引き続きしっかりと行う必要がある。また学生情報についての記録のペーパーレス化と一元化を推進していくことも必要である。	講師への個別対応を実施する。 グループウェア「サイボウズGaroon(ガルーン)」やクラウドサービス「BOX」を導入し、情報の共有、スケジュール管理、会議・研修資料の送受信等をネットワーク上で行うとともに、稟議や物品購入などの承認業務も電子化し、業務効率を上げている。		

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	教育課程編成委員会の規定を定め、それに基づき実施している。	特になし	特になし	3.0	<p>・製菓の発表について、調理師海外の学科はどうなっているか？ 動画であったSDGsのような各分野の課題を取り入れるのは良い取り組み。</p> <p>・言語聴覚学科の国家資格合格率低下の要因は？</p> <p>・カリキュラムが適切に作成されており、教育活動が充実している。外部評価を上手く活用し、改善を図っている。</p> <p>・教育期間として根幹を成す部分だと思うが、現状に満足することなく更なる高みを目指し、改善を図っている点は評価できる。</p> <p>・ICTの活用、調理師科のSDGsの取り組み等未来を感じる取り組みだと思う。</p> <p>・学生ブレスの目的・目標・視点が素晴らしいと思う。</p>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	教育指導要領(学生便覧)に全て記載している。資格取得に向けては通常授業、通常授業外でも対策授業を実施している。国家試験対策センターでデータの分析、対策研修、教育分科会を実施している。	特になし	特になし		
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	教育課程編成委員会の規定を設け、学科ごとに年2回開催し、カリキュラム作成に活かしている。 講義・演習・実習は教育指導要領に記載し学生に説明している。シラバス、コマシラバスを全ての授業で導入し、具体的な到達目標を示している。また、その到達具合を図るための小テストを毎授業で実施している。 学園グループの福祉教育分科会にて他校の成功事例を学び教育内容、方法、授業計画等の改善に活かしている。指定規則に沿って、授業内容を講義・演習に分け、内容にて工夫している。 学科ごとのシラバスと毎回の授業の内容を示すコマシラバスをTeamsへの掲載はほぼできている。	カリキュラム改定の根拠やプロセスを明確化するとともに、その効果をどのように図るかを明確にする必要がある。	教務部長を中心に各学科で検討を進め、記録を残す。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	教育課程編成委員会のみならず、同窓会、実習巡回を通じて業界や卒業生の意見を積極的に取り入れている。 また、社会の変化や国家試験結果を踏まえ、適宜、カリキュラム変更を行っている。	特になし	特になし		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育ロードマップを作成し、授業や行事等体系立てた教育を実践している。 専門科目授業・担任授業・ホームルーム等、ほぼすべての授業においてキャリア教育の視点を含めている。 これまで実績のない就職先を優先に内定先訪問をキャリアセンターが主となり実施。 新卒1年目を対象に離職調査を兼ねて就業状況アンケートを実施している。 また、実習中の巡回指導の際には卒業生の状況についてもヒアリングをしている。	特になし	特になし		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	前期・後期の各1回ずつ、学生による授業アンケートを実施している。 年2回の講師面談にて、授業アンケートの内容をフィードバックしている。	特になし	特になし		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	評価基準は学則で定めており、学生便覧に記載し学生への説明を行っている。 講師会議で成績評価(GPA評価)に関する研修を実施している。 定期試験と小テストの運用で、日々の学習が成果に繋がるしくみとしている。 進級卒業判定会議にて成績評価について認定している。	特になし	特になし		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	分野特性で対外的なコンテスト等はないが、学内の卒業研究発表会(調理師科)や、外部発表会(高齢者福祉研究大会)に参加し、学びのアウトプットをしている。	特になし	特になし		
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	取得目標資格は学生便覧に記載しており、また資格取得に向けて対策授業・集中授業も行っている。 WEBでの国家試験対策も行っている。	特になし	特になし		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	国家試験不合格者への卒業後の支援は無料(授業料)で行い、国家試験対策への参加を促している。	特になし	特になし		

3 教育活動	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	<p>講師契約は毎年更新し、そのたびに履歴書、資格取得の免許写し、実務経歴書も確認している。 教員の採用計画も事業計画に記載しており計画的な人事採用を行っている。 教員の資格・実務経験などもシラバスに記載している。埼玉県への届出により年齢や男女など構成を明示している。</p> <p>昇格措置等については、学園人事部より規定があり、明示している。 授業時間数は業務委託契約書に記載し、学生数についても講師会議等にて共有・把握している。</p>	特になし	特になし	
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	3	<p>常勤職員については学園の研修、外部研修を通じて資質の向上に努めている。 また、講師向け研修会を実施している。 学園グループの教育研究・研修期間(JESC)にて教育学会を開催し教職員の教育活動を支援している。</p>	特になし	特になし	
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	<p>教務部長、学科長を中心に教員集団の資質向上に努めている。 役割一覧にて教育の責任は明確になっている。</p> <p>学園の教育改革センターとの連携・研修実施している。 担任を中心に非常勤講師との情報共有を毎回の授業毎に実施している。</p>	非常勤講師と情報共有・連携について講師個人によって差があるため、更に密にコミュニケーションを取る必要がある。	講師会議・科目連絡会の複数回実施。	
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	<p>就職者率、内定率は目標設定している。学生の活動状況は就職システム(業務システム)で随時更新し情報共有している。就職行事も年間を通じて行っており、データも一元管理している。</p> <p>就職セミナーは全学科で行い施設の概要だけでなく、就職してからのキャリアアップについての理解が進むような内容を提供するようにしている。</p> <p>分野ごとの新しい就職情報や傾向をキャッチするとともに現在の学生の就職意識や特徴などを伝えるなど情報交換を行っている。</p>	国家試験の準備に多くの時間を必要とする言語聴覚士科、言語聴覚士科Ⅱ部での就職活動との両立。	年間のフローを再構築し、国家試験が不合格となる事が見込まれる学生と面談をおこない、国家試験前、国家試験後の就職活動の動きを明確に共有する仕組みを構築する。	<p>・就職率100%は素晴らしい。次のステップとして、第一希望先100%を目指してはどうか？</p> <p>・OB・OGの子どもなどが入学している割合を図るのも良い指標になるのでは？良い結果であればHP等に載せるのも良いのでは？</p> <p>・専門職への就職100%は大切だと思います。</p> <p>・きめ細やかな指導により成果を挙げている。引き続き、社会に有為な人材を輩出していただきたい。</p>
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	<p>【2023年度実績(合格率)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士:90.5%(38/42)全国平均82.8% ・社会福祉士:96.3%(26/27)全国平均58.1% ・言語聴覚士(昼間部):69.2%(18/26) ・言語聴覚士(Ⅱ部):91.7%(11/12)全国平均87.3% ・製菓衛生師(通信):85.7%(18/21)埼玉県平均59.9% <p>資格ごとに合格率目標を事業計画で定めており、全国平均との比較をし、日々精査している。 学園グループ内の国家試験対策研修会に参加し、国家試験対策授業、模擬試験、教科書教材等の見直しを図っている。</p> <p>全学科で試験2ヶ月前を目途に学園の国家試験対策センターによる直前特別授業を行い、動機付けによりクラスの士気を高めた。</p>	言語聴覚士科(昼間部)の合格率が2年連続で全国平均を下回っている。	<p>学科・クラス全体の目標点数の引き上げ 低得点者別対策授業の実施</p> <p>学園の国家試験対策センターと連携し、年2回、模擬試験結果を用いた特別授業を実施する。</p>	<p>・資格・免許取得や就職率向上に尽力している。卒業生とのネットワークに問題点は、卒業生側に起因する要因が多いと考えられる。</p> <p>・目標に向けて取り組まれていう点と未達の点については明確に次の課題を設定されていますので、改善点の共有が素晴らしいと思います。</p>
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	<p>卒業1年の離職調査を行い、業務システムに情報集約している。 「卒業生インタビュー」を学校HPに掲載。卒業生の活躍から福祉の魅力を発信している。</p>	卒業生は当時の職員を通じてのつながりが強く卒業生の動向がわからない世代がある。また、埼玉ベルエポック製菓調理専門学校卒業生へは校名変更による弊害が起きないように整備したい	同窓会でのネットワーク再構築が必要となる。	

5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	キャリアセンターと卒業学年担任とは定期的な会議での情報交換だけでなく、ITツールを使用し、学生の疑問や不安に対して迅速な対応をしている。また、全体会などを通じて学校全職員にも就職活動状況を共有している。 全ての学生に、就職対策の授業を実施し、業界関係者からの説明と就職活動に必要なノウハウを知ってもらう取り組みを行っている。	国家試験の受験が必須の学科については、追い込み時期前までに、全員が就職内定を持っている環境を構築していきたいと考えている。そのためにも、効果的で効率の良い就職支援の実施が必要。	就職活動に必要な知識を学ぶための授業と業界を知る就職ガイダンスを全学科で実施しているが、より学生が関心を持てる内容にブラッシュアップする事が必要と捉えている。	<p>・きめ細やかな指導を行い、成果を挙げていると理解している。高校側から見ると「安心して送り出せる学校」「生徒を成長させてくれる専門学校」であると言える。</p> <p>・義務教育、高等教育を修了し、選挙権を得ている18歳以上、且つ自ら専門職を志して己の意思で入学した学生に対し、学校はどのレベルまで保護しなくてはならないのであろうか。保護者の責任も多々あるものと認識しているが、あくまで学校として出来る支援は行うという姿勢に感銘を受ける。学生に対する愛情を感じる。</p> <p>・個別で丁寧に対応されている。</p>
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学数は開講以来数字で集約、分析している。 また学生相談室を設置し連携している。 年1回のキャリアサポートアンケートにて個人の状況を把握し学生サポートに活かす。 合理的配慮の実施や研修を実施して一人ひとりの課題に対応している。 昨年度課題であった保育士科はチーム担任制とし業務分担することで、昨年度11名の退学だったところ5名に抑えることができた。	28名の退学者の内訳は、1年生:18名、2年生:8名、3年生:2名であった。 進級学年(2年・3年)の退学が増加し、要因は実習不応応と目的意識の喪失が挙げられる。 また、1年生では、年度当初休学が3名いたが、いずれも復学が困難な学生であり、学校として対応できることは実施したが退学となった。	進級学年の退学を防ぐために実習前の動機付け・リスク管理について整備する必要がある。また、目的意識継続を目的としたプログラムを構築する必要がある。 休学については復学プランを具体的に立てた上で本人とも月1面談を実施しながら取り組む必要がある。	
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	専任カウンセラー1名と非常勤カウンセラー3名を配置している。 またJTSC(滋慶トータルサポートセンター)とも連携し、様々なケースに対応している。 年度当初、新入生・在校生問わず、JTSCの案内を行なっている。 カウンセリングについては記録を保存している。 卒業生の相談については、元担任が窓口となり、キャリアセンター職員につなぎ、対応している。	精神疾患の相談件数が増加しており、医療機関との連携が必要なケースもある。その際保護者の理解が得られないケースの関わりが難しい。 また、カウンセリングの継続動機付けが難しい。	非常勤講師、医療機関と連携を組み、対応策を検討していく。 また、カウンセリング継続動機付け方法を検討していく。	
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	留学生窓口として教職員を配置。学習、学生生活、私生活等での問題解決を行なっている。 留学生を支援する企業・業界とも連携し、学校生活や学習に関するサポートを行っている。 留学生限定の国家試験対策も実施している。	国家試験対策、職場の受け入れ態勢整備。 介護福祉士科において、日本語学校から講師を派遣し、日本語について特別授業を開講している。全員がN2以上取得は出来ていない。	留学生支援担当者を設定。(学生サービス) 国家試験については、介護福祉士科教員にて留学生限定の対策授業を1年次から設定・構築し、国家試験合格に努める。	

5 学生支援	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	日本学生支援機構の奨学金利用者は増えており、学生サービスセンターが手続、返還案内等行っている。また保護者への説明として、オープンキャンパス時に保護者会を実施し、説明をしている。 在学中においても追加で奨学金制度の説明会を実施し、学費に関する不安の解消に努めている。 各種公的支援制度を活用している。 家庭での支援が充実するよう保護者との面談を強化している。	生活保護世帯や児童養護出身者など、家庭での支援が望めない学生、経済的困難者に対して個別に対応しているが、制度として整えていく必要がある。 留学生においても学費がネックであり、入学をあきらめるケースがあるため、留学生の学費支援制度(施設奨学金等)も構築していく必要がある。	施設奨学金制度のシステム構築と対象施設の選定・同意を得ること	2.9
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	保健室の専門職員は居ないが、看護師、介護福祉士の有資格者がおり、対応している。健康診断も毎年実施している。 定期健康診断は毎年実施し、記録は保存している。 感染症対策については引き続き徹底している。 SSC(学生相談室)と連携し、心身の健康相談を実施している。	2次検診対象者の受診率が100%にならない。	該当者の共有を実施。担任からの受診促進。 学生サービスセンターの目標としても掲げ、学校として受診率を上げる取り組みを行う。	
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学校運営の寮はないが、提携寮が男女それぞれ2つある。実際には埼玉県外からの入学は少なく、寮の利用も多くはない。	特になし	特になし	
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	2023年度においては、SCWクワイヤー(ゴスペルサークル)も活動を再開し、埼玉県内のイベントに複数参加した。また、『きょうされん第46回全国大会in大宮』のボランティア活動についてもクラス単位で参加し、運営に大きく貢献した。	特になし	特になし	
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	「一人ひとりを大切に」をキーワードに、入学前は保護者会、入学後は保護者への連絡や個別面談などを適宜実施している。 学科・担任により保護者への連絡のタイミングが異なるが、小さな問題でも保護者と共有し、協力体制を早期構築する。	協力が得られない家庭への対応(連絡がつかない保護者、子供にまかせっきりの保護者)が難しい。	カウンセラー含め学科職員で共有して学校の出来ることを探りながら対応する。 学科特性を鑑み、在学中の保護者会を実施する。	
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	今年度は埼玉ベルエポック製菓調理専門学校の開校以来の卒業生と埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校の過去10年以内の卒業生約200名が集う同窓会を開催することができた。 また、卒業後1年目の卒業生を対象とした座談会を行い離職防止や情報共有の場を設けることができた	卒業生のキャリア段階に合わせた卒業後教育としての同窓会の開催。 連絡先不明になっている卒業生も多く、郵送での情報のやり取りには限界がある	Zoom(ウェビナー)やLINE等のSNSを活用したオンラインでの実施 卒業生が現在求めている情報の集約の強化。	
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	オープンキャンパスにおける卒業生の誘致、講師としての授業の開催	産学連携教育の構築		
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	18歳人口の減少は年々影響が拡大しており、入学形態もハローワークを通じた職業委託訓練生を3学科で受け入れることとなった。 社会人経験者が多い社会福祉士養成科において、授業前に学習や就職相談ができる『サポートタイム』を設け、個別対応している。	就職においては単に分野の適性にとどまらず年齢・家庭状況・職務経歴を前提とした支援を要する。 年齢により複数の企業で不採用、家庭の事情で就職断念などがあり、様々なケースに応じた就職先の確保が必要である	様々な年齢に対応した新規求人への開拓	

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	<p>指定規則と同等またはそれ以上の設備、備品を整えている。設備については点検、整備含め関連会社が行っており計画的に改修も行っている。</p> <p>老朽化した壁紙やエントランス部分については2023年度末に修繕を段階的に実施した。今後も継続する予定である。</p> <p>在校生・卒業生を対象に普通教室・図書室の開放と貸し出しを行っている。リクエストがあった場合、随時圖書の購入もしている</p> <p>滋慶スペースによる施設・設備等の保守、入れ替え等の10年計画を立案。その計画に基づいた予算を事業計画に盛り込み実行。</p>	特になし	特になし	3.0	<p>・施設設備を有効に活用し、居心地のよい環境づくりを心掛けている。毎年改善が図られている。</p> <p>・仲町3丁目は高齢者が多いため、学生の皆様方の若い力に期待しています。</p> <p>・環境整備に力を入れて取り組んでいる様子が伺える。災害等の有事の際は学校が地域の防災拠点として機能するという使命もあろう。色々なことを想定して取り組みを進めていきたい。</p> <p>・必要な環境の整備に取り組んでいると思います。</p> <p>・調理と扶育しとの交流を増す。</p>
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	<p>実習については、学科 毎に実習要綱を作成している。実習指導者との実習内容・指導内容の擦り合わせは、オンラインでの実施の他、実習巡回でも随時行っている。</p> <p>実習評価については学内・学外での評価にて算出することを学生に伝えている。</p> <p>地域連携の学内実習を屋間部の各科にて学生が主体となって運営している。 介護:オレンジカフェ 保育:エンゼルキッズ 言語:ことばの教室 製菓調理:販売実習</p> <p>介護福祉士科において、地域交流を目的とした『春祭り』を学生主体で開催し、地域の高齢者・こども・施設関係者等、総勢200名が来校した。</p>	特になし	特になし		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	<p>教職員・学生ともに毎年防災訓練を実施している。施設の耐震化などは関連会社に管理してもらい適正である。 非常時には2校のインカム(トランシーバー)で連絡を取りながら対応できるようになっている。</p>	特になし	特になし		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	<p>防災マニュアルは学園として規定している。 非常時持ち出し用の名簿も整備している。 外部実習の安全管理についても実習前・巡回時に実習指導者と情報共有をし、安全管理に努めている。</p>	特になし	特になし		

7 学生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3	埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいて募集活動を行っている。高校センターを設置し、募集目的のみならず福祉、保育・医療・食業界の正しい理解を得るための高校訪問、説明会も参加している。	介護分野への高等学校教員の正しい理解が得られない。 業界や職業理解をいただけるような授業や訪問活動が必要	高校訪問や出張授業を中心に福祉・保育・医療・食分野の正確な情報提供を実施。 また、教育委員会や校長会をも巻き込んだ福祉・保育・医療分野の仕事説明会を関連団体や県の所管と連携し実現をめざしたい。	2.9	・介護分野について、進路の先生がまだまだ古い情報を持っているので、処遇などが変わったことを引き続き周知してほしい。 ・専門学校・短大では学生募集に苦慮している学校が少なくないと聞いているが、教職員が一丸となり目標に向けて頑張っている。引き続きのご努力に期待したい。同じような学生募集であっても、繰り返し行っていくことが重要であると考え。 ・学生募集については熱意を持って取り組んでいると感じる。受け入れについても適切な対応が取られている。 ・高専連携の取り組み、情報発信など、しっかり取り組まれていると思う。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	ルールに沿った募集を行っている。 卒業生の活躍を学校案内等に掲載し、就職分野や進路先の理解、教育を中心とする学校の理解が得られるように工夫をしている。 個人情報保護法に基づき、広報活動で得た情報は、適切に案内と管理している	入学定員を最終入学目標と掲げているが、定員を満たしていない。 外部要因のみならず、自校、自学科の特徴を明確にし、顧客に合わせた募集活動を行うことが必要。 顧客や業界のニーズにあわせた学科のイノベーションを検討する。	自校、自学科の特徴をエビデンスで明確にし、顧客に合わせた募集活動ができるよう研修の実施。また、顧客の価値を明確にし、顧客に合わせた情報提供ができるよう随時研修を行い、スタッフ一人ひとりのカウンセリング能力を高めていく。 本校の教育内容など、SNSを通じて配信し、見える化していく。 業界や顧客の需要にあわせたイノベーション会議の実施。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた規程にて実施している。入学選考は、学校長を含む主要メンバーにより構成される、「選考会議」にて基準に基づいて合否判定を行なっている。	特になし	特になし		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	毎月末に学校・学科の数字分析を行い、適切に管理をおこなっている。 入学者の個別データを基に入学生の状況を知り、入学前教育の内容などを検討している。オープンキャンパスに参加した人数を基に入学者の予測数字を作成している。 事業計画にて財務数字を作成している。	入学辞退者の発生。 入学前教育の内容を学科ごとに見直し、徹底して実施できていない	入学前のモチベーションを保つための入学前教育時期と内容の変更と、共有事項の徹底を図る。		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	入学初年度のみならず、卒業までにかかる学費諸費用について募集要項に明示している。また諸費用算定にあたっては、事前に見積もりをとり、それに基づいた徴収額を学内で決定している。	特になし	特になし		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	入学前の3月末までの申し入れに対して学費返金は明示し、実際に返金している。	特になし	特になし		

8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5か年の中長期事業計画で収支計算を行っている。またその予算執行状況を四半期ごとにチェックし修正しながら適切な予算運用をしている。設備投資についても財務状況を見ながら5か年計画を立てている。	定員充足はしていない。	廃科、定員変更、新学科の設立など、イノベーションを実施。	3.0	・対応は適切であると判断している。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	関連会社による財務の監査、分析を行い適正な運営をしている。またその連携によって学校としても予算執行を管理している。	特になし	特になし		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	学科の変更などに伴う募集の費用や設備投資など5か年で計画を立て運用している	特になし	特になし		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	「予算=決算」を目標に関連会社とも連携し透明性の高い予算執行を行っている。学園内監査も行い、適正に運用されているかチェックを受けている。	特になし	特になし		
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	会計監査は学校の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人(公認会計士及び監事)が監査を実施し、監査報告書の作成、理事会及び評議員会で報告している。	特になし	特になし		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	情報公開規定、情報公開マニュアルを整備しており、それに基づいてホームページでも情報開示している。	特になし	特になし		
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	総務センター、コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。学園本部にはハラスメントの相談窓口がある。学生にはソーシャルメディアの適正な使用方法を含めコンプライアンスに関する教育を行っている。	特になし	特になし	3.0	・法令順守の仕組みが構築されている。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	就業規則に個人情報の取り扱いに関する規定も設け、全職員に対して個人情報保護の研修を実施している。学生についても現場実習における個人情報保護の授業を実施している。	特になし	特になし		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	自己点検自己評価委員会を設け、年に1度点検会議を実施している。またその結果を学校関係者評価委員会で報告し意見をもらい改善している。	特になし	特になし		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	ホームページで学校評価、財務状況、監査結果など公表している。	特になし	特になし		
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学則や規定は毎年見直し修正のある場合は届出を出している。教育課程編成委員会は2年ごとに任期を設け適切な方に評価していただいている。	特になし	特になし		
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	ホームページで公表している。	特になし	特になし		
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページ上で学校情報の公開、さらにSNSで教育活動を公開している。	特になし	特になし		

10 社会 貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	<p>精神保健福祉協会や自治会の会合場所として教室を提供している。</p> <p>さいたま市私立保育園協会との産学連携でさいたま市と市内の特徴ある保育を学生が学び、魅力を発信する課題解決型プログラムを組んでいる。</p> <p>大宮例大祭において、神輿・山車の運営に有志学生が参加した。また、地域の子供たちにパンをふるまっている。</p> <p>埼玉県庁からの委託事業として、『埼玉県外国人介護職員応援セミナー』を3回実施している。</p> <p>近隣高校の学生を招き、職種理解を目的として授業を実施し協力体制を構築している。必要に応じて出張授業も実施している。(介護・保育・言語・調理)</p> <p>地域・社会問題の解消と職業観を高めるために、各学科において、オレンジカフェ・エンゼルキッズ・ことばの教室を実施し、社会問題に対する問題意識を高める機会を設けている。</p> <p>販売実習を行う中で、食品ロスを極力なくすことを意識し、学んだ技術・知識のアウトプットをしている。</p>	各種団体と連携した教育についてはより一層質の向上を目指していく必要がある。	キャリアセンターと連携し、連携先を開拓していく。	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園協会との連携はとても良い経験だと思えます。 ・地元との連携を図り地域に根明日学校づくりを行っている良い取り組みが行われていると評価してる。 ・地域と連携した各種活動を通じて、社会に貢献する姿勢を積極的に打ち出している。 ・学生が主体となって連携・取り組みを続けていただきたいと思う。 ・外国人への対応をもっと進めてもらいたい。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	<p>国際教育は建学の理念の一つでもあり、海外研修、国内で行う国際講座など実施している。(2023年度は渡航先(スウェーデンの国際情勢による危険性があったため、安心・安全を最優先し、中止した)</p> <p>国内研修として、北欧に関するゲスト講演等の、国際的な感覚を高める体験を実施した。</p> <p>米国絵本作家による国際的な多様性に関する授業を実施した。</p> <p>2023年度留学生受け入れ人数は11名(介護8・調理3)となった。日本語学校とも連携し、日本語トレーニングの授業も実施している。</p>	<p>留学生の受け入れについては体制含め今後整えていく。</p> <p>国際情勢による危険性があったため、海外研修に赴くことはできていない。</p>	留学生を支援する企業・業界・日本語学校との連携をすることで、学生生活・学習についてのフォローを計画的に実施し、定期的に確認を行う。留学生受け入れ実績校との連携を通じて外国人教育を構築していく。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	<p>2023年度については、SCWクワイヤー22名によるゴスペル公演を大宮区民ふれあいフェアにて実施した。</p> <p>高齢者福祉施設において、納涼祭やクリスマス等、行事について有志でボランティア活動を行った。(4施設)</p> <p>きょうされん第46回全国大会においては運営ボランティアとして介護福祉士科学生69名が参加した。</p> <p>リアル体験教室にて調理師科・パティシエ科1年制が参加。(地域のこどもを対象にお菓子教室の運営・ボランティア実施) ※主催:埼玉県県民生活部青少年課</p>	特になし	特になし		